

ひばりが丘中学校及び田無第二中学校通学区域見直し等に関する地域協議会 中間まとめ（案）

■これまでの経緯と基本的な考え方

【これまでの経緯】

平成26年2月に西東京市立中原小学校及び西東京市立ひばりが丘中学校建替準備検討協議会において、中原小学校及びひばりが丘中学校の建替え案に関する課題を整理した上で、12案の通学区域が示された。地域協議会※では、現状を踏まえ12案の更なる検証を行った。

【基本的な考え方】

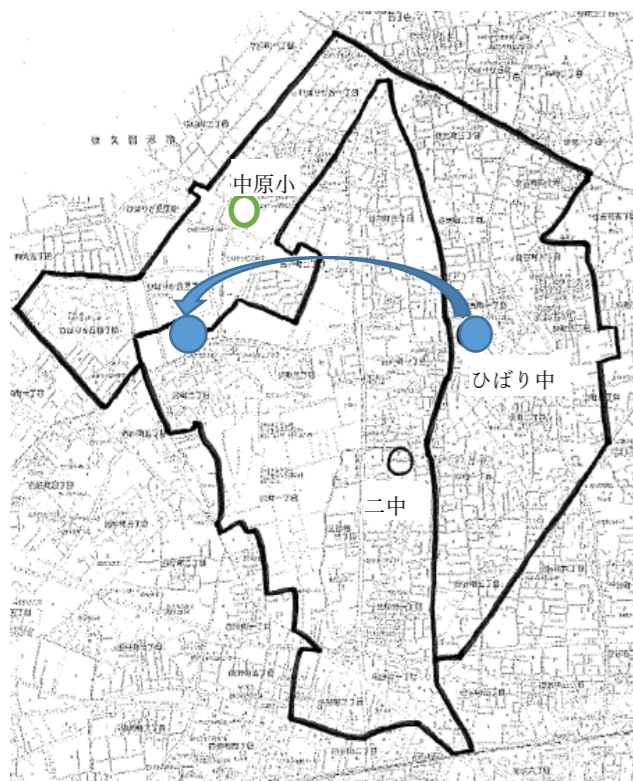
- 施設の移転による通学距離を踏まえた見直し（いびつな通学区域の解消）
- 両校の一定の学校規模と学校教育・部活動の充実（生徒が切磋琢磨できる環境づくり）
- 教員の確保も含めた学校経営の安定化（計画的な教員配置）

<具体的な検討の視点>

- ・通学距離と通学区域のわかりやすさ
- ・生徒数、学級数と学校施設のバランス（生徒数、学級数はマンション開発等の状況も考慮）
- ・小学校から中学校の進学先

※地域協議会は、田無小学校、保谷小学校、谷戸小学校、中原小学校、谷戸第二小学校、住吉小学校、田無第二中学校、ひばりが丘中学校の学校長及び保護者・地域住民で構成されています。

■ひばりが丘中学校移転図

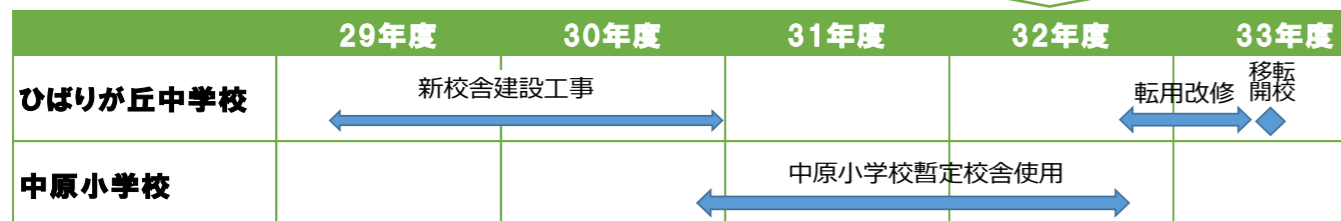


■地域協議会における検討経過

第1回	平成29年2月	現状等についての共通認識を図る
第2回	平成29年5月	学級数の推計等を元に12案から3案に絞込み検証
第3回	平成29年7月	第2回で提示した3案を小学校から見た進学先も含め具体的に検討
第4回	平成29年8月	協議会での意見を踏まえ2案に集約し検討
第5回	平成29年10月	中間まとめ（案）の検討

■ひばり中移転と中原小暫定使用の流れ

- ・老朽化に伴う中原小の建替えに伴い、中原小の仮校舎として新校舎を約2年間使用
- ・平成33年夏にひばり中は新校舎に移転し開校



■移転に伴い対象となる生徒と手続の検討

平成29年度の学年	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度 移転開校	平成34年度	平成35年度
小学6年	中1	中2	中3		在学中に移転	
小学5年		中1	中2	中3		
小学4年			中1	中2	中3	
小学3年		平成33年度入学以降の生徒は新通学区域		中1	中2	中3
小学2年					中1	中2
小学1年						中1

- 指定校変更は兄弟姉妹関係を配慮し、運用予定
- 学校選択制度の受入枠は、生徒数と学校施設の状況など総合的に勘案して設定予定

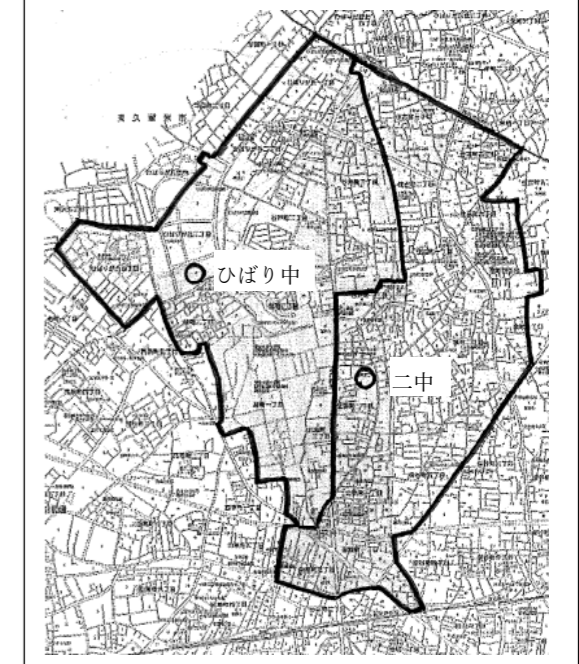
■通学区域の概要

〔中間まとめ 第1案〕



- ・学級数のバランスが良く、通学距離も考慮されている。（ひばり中は15学級から16学級、田無二中は11学級から13学級）
- ・一つの小学校から複数の中学校に進学する割合が増加する。
- ・通学距離のバランスは良いが、通学区域がわかりにくい。

〔中間まとめ 第2案〕



- ・学級数のバランスが良い。（ひばり中は14学級から16学級、田無二中は11学級から14学級）
- ・一つの小学校から進学する中学校数は現行と変わりなく分散しないかたちであり、小学校と中学校が連携しやすい。
- ・通学区域はわかりやすいが、通学距離が現状より長くなる地域がある。

■今後の取組み

- ・市民説明会等のご意見を参考にしながら、今年度中に新たな通学区域を決定する。
- ・市報、西東京市の教育、ホームページ等による周知、各小中学校への周知